

サイバー攻撃の手法は多様化。もはや「対岸の火事」では済まされない
炎上なども含めたネットのリスクに広報はいかに対応すべきか

広報会議

12月号(11月1日発売)

特集「ネット上のリスクに備える」



「リスク管理」は広報部門の重要な機能です。

IPA(独立行政法人情報処理推進機構)は6月下旬、企業のウェブ改ざん被害の急増により、一般利用者(ウェブ閲覧者)におけるウイルス感染の危険性が高まっているため、一般利用者に向けた注意喚起情報を発しました。こうした被害は政府機関や一部の大企業にとどまらず、広まっていく兆しがあります。

こうした事態への対応は、もはや情報システム部門にとどまりません。サイバー攻撃にしろ、ネット上の炎上にしろ、対応は情報戦です。対外発信や公聴を迅速に行い、いかに二次災害を防ぐか。社内の情報戦略全般を扱う広報部門の役割がさらに増していくでしょう。

特集では考えうるさまざまなネット上のリスクを題材に、その予防と対策、現在の趨勢に至るまでを網羅しつつ、リスク発生時の広報の重要性を訴えていきます。



「広報会議」
2013年6月号から

広がり続けるサイバーリスク 企業にとって備えは喫緊の課題に

《最近の主な見出しから》

- ・サイバーテロ、電力など5業種に246件 12年度
- ・トヨタのサイト改ざん 閲覧でウイルスに感染
- ・NTT、米セキュリティー会社買収 200億円投じクラウド強化
- ・企業サーバー悪用しサイバー攻撃 被害は大規模

「今年注目しているのは
サイバーリスク対策だ」

秋山隆平氏（インターネット広告推進協議会
理事長／電通取締役常務執行役員）



日本経済新聞電子版から

広報部門は、経営戦略の一機能
リスク対応でもハブとなっています

① 経営の参謀としての機能

- ・社内外から吸い上げた情報を経営層へ
- ・トップの方針を社内外へ
- ・トップがメディアなどに出る際の指南役

② メディアリレーションズ

- ・記者発表、プレスリリース
- ・個別記者への取材対応や折衝
- ・記者クラブ対応、渉外対応

③ インナーコミュニケーション

- ・社員、OB、関係者への情報発信
- ・社内のモチベーションアップ

④ ウェブサイト運用管理

- ・コンテンツを中心にした運用管理
(部署横断組織の事務局など)
- ・企業発の情報の集約機能

情報システム部門だけでは、リスクの出口まで対応することはできません

ウェブサイト運営は広報の機能のひとつです

【広報部門200社アンケートの結果から】

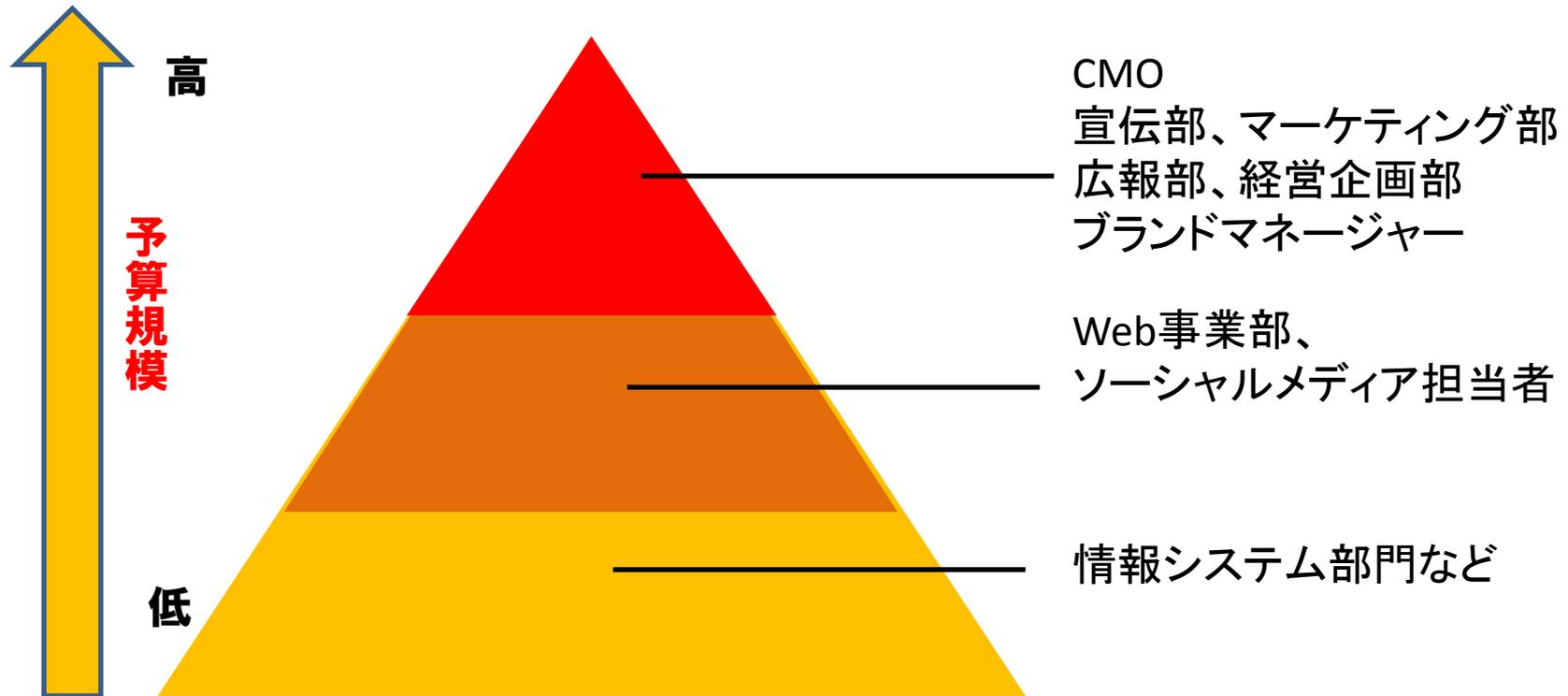
企業(大手)広報
部門の6割強は、
ウェブ運営
機能を持つ



メディア対応のほか
企業メッセージの
社内外発信ツール
制作にも大きな役割

広報部門の立ち位置

経営層のブレンとなるのが広報部門です



広報会議 12月号(11月1日発売) 巻頭特集

「ネット上のリスクに備える」

- 国内で増え続けるサイバー攻撃の実態は
- 中小企業でも要対策。サイバー攻撃への備え
- ソーシャルメディア「炎上」の境界線とは
- 広がるリスクの見極め方
- 事件発生！ 広報は何から対応すべきか
- 現代は3秒で広がるーリスクコンサルタントに聞く

総論

生活者はいま情報をどのように見ているか？

スマホの普及で情報発信が変わる？

特集の流れ※イメージ

今こそウェブPR

ソーシャル時代の情報流通大解剖

クライアント視点

ネットへの監視と「人」を使ったアプローチ

各論

ターゲットと伝えたい情報を合わせてソーシャルメディアを使い分ける

特別協賛枠

4C2Pタイアップ 160万円 4C1Pタイアップ 80万円(税別)